

# プロレス番組が契機に 入学前から道場通い

「小学生の頃に見た深夜のプロレス番組が、プロレスラーに憧れたきっかけでした」。膝のケガでサッカーをあきらめた時に出会ったのが、プロレスという新世界。中学生になると「トリプルH」というアメリカ人のレスラーに目を奪われる。試合中に足の筋肉を断裂しながらも、「観客が盛り下がるから」という理由で試合を続行したプロレス道に感銘を受けた。翌日から友達に「俺はプロレスラーになる」と公言するようになった。

中学校入学時の成績は学年トップと頭脳明晰。熊本県下で有数の進学実績を持つ熊本高校に入学した。プロレスに役立つ格闘技はないかと近くにあるテコンドーの道場に入り、蹴り技を極める日々。大学へと進む気持ちはなかったはずが、母が強く反対した。「プロレスラーになんかなれるわけがない。頼むから大学だけは行ってくれ。薬剤師免許を持っていると将来何かの役に立つはず」と薬学部を薦められた。

母親からの強い説得に吉岡選手が折れ、進学を希望したのがキャンパスの近くにプロレス道場がある

岡山大学だった。社会人がプロレスの試合が行える「レスルゲート」というプロレス団体の存在を知った吉岡選手は岡山大に見事に合格、引越しを済ませ、大学入学前にレスルゲートに入門した。

大学とプロレスの2足のわらじ。レスルゲートで初めて触れたプロレスは、あこがれとは違った。「技術的にも体力的にもとても難しいと感じた」。その一つが“体づくり”。もともと食が細い体質だったが、お茶碗1杯程度しか食べないのが、それを大盛り、2杯に増やした。テコンドーでの蹴り技に加え、レスリングでの組み技も習得した。

レスルゲートでは週1回の練習、月1回の試合、大学ではテコンドー同好会に入り、格闘技漬けの毎日を過ごす。学業はというと、「試験の点数はギリギリ、単位もギリギリで友人に助けられました。周りに恵まれた大学生活でした」。研究で有機化学を専攻するなど化学は得意だった一方、生物などの暗記科目は苦手だったという。5年次には病院・薬局の実務実習に行き、なんとか薬剤師国家試験も突破した。



ールマークという英国人レスラーと英国団体のベルトを賭けた一戦。勝利し初タイトルを獲得したが、試合中、相手選手のバックドロップを、バック宙で避けるというアクロバティックな動きで着地した瞬間に痛みが襲った。膝の後十字靭帯を損傷し、その後全く動けずに悔いだけが残った。

試合中の怪我はレスラーの宿命。「タイトルマッチの翌日に入院」というケースが他のレスラーよりも多いのが吉岡選手だ。タイトルマッチで怪我をしなかったときも、なぜか試合2日後のクリスマスイブに盲腸を発症し、入院するという不運も続いた。「駄目な方で“持っている男”なんですよ」と

# 全日からレススル・ワンに

薬剤師として一度も働くことなく、プロレスラーの道へと突き進んだ。カズ・ハヤシ選手に誘われ、レスルゲートから全日本プロレスの練習生となったが、2カ月後にはまさかの団体分裂。尊敬する武藤敬司選手が立ち上げた新団体「レススル・ワン」に所属することになった。

日々の練習は、集団練習2時間、筋トレ2時間、さらに自主練も含めると1日5時間に及ぶハードな内容だ。準備体操に加え、スクワットを多い時に1000回、腕立て伏せを8種類20回3セットの基礎練習を終えた後に、ようやく練習が始まるという過酷さだ。

蹴り技が得意な吉岡選手。得意技は「クロックストライクス」。背中合わせで相手の腕を引きながらハイキックする技で、1月の試合でフィニッシュ技としてお披露目した。試合で披露したのはバー

ジョン1だが、既にバージョン4まで新技として完成しており、大事な局面での秘密兵器に取ってある。

勝利よりも試合内容を重視している。レスラーには試合後に、「自分の良かったところを探す」「自分が悪かったところを探す」という二つのタイプがいるそうだが、吉岡選手は後者に当てはまる。

「勝った試合でも、動きに精彩を欠いていると、控え室で落ち込んでしまう」という性分。忘れられないのが、2014年に両国国技館でディーン・オ



得意の蹴り技を繰り出す

怪我との闘いにも勝利

首都圏を中心に店舗展開中!

東京都：20店舗 神奈川県：5店舗  
埼玉・千葉・山梨・栃木県：各1店舗



会社説明会開催中!

ミキ薬局



「食と栄養」の情報発信もおこなう調剤薬局

「これからの薬剤師のはたらきかた」

株式会社メディカルファーマシー

本社：〒162-0056 東京都新宿区若松町9-12 KSビル 2F TEL 03-5368-2011

人材開発部 saiyou@miki.ne.jp ホームページ http://miki-ph.jp